



# 株式会社田野井製作所 DX推進ビジョン



# DX推進ビジョン

---

## 1. 社内DX推進による生産性向上

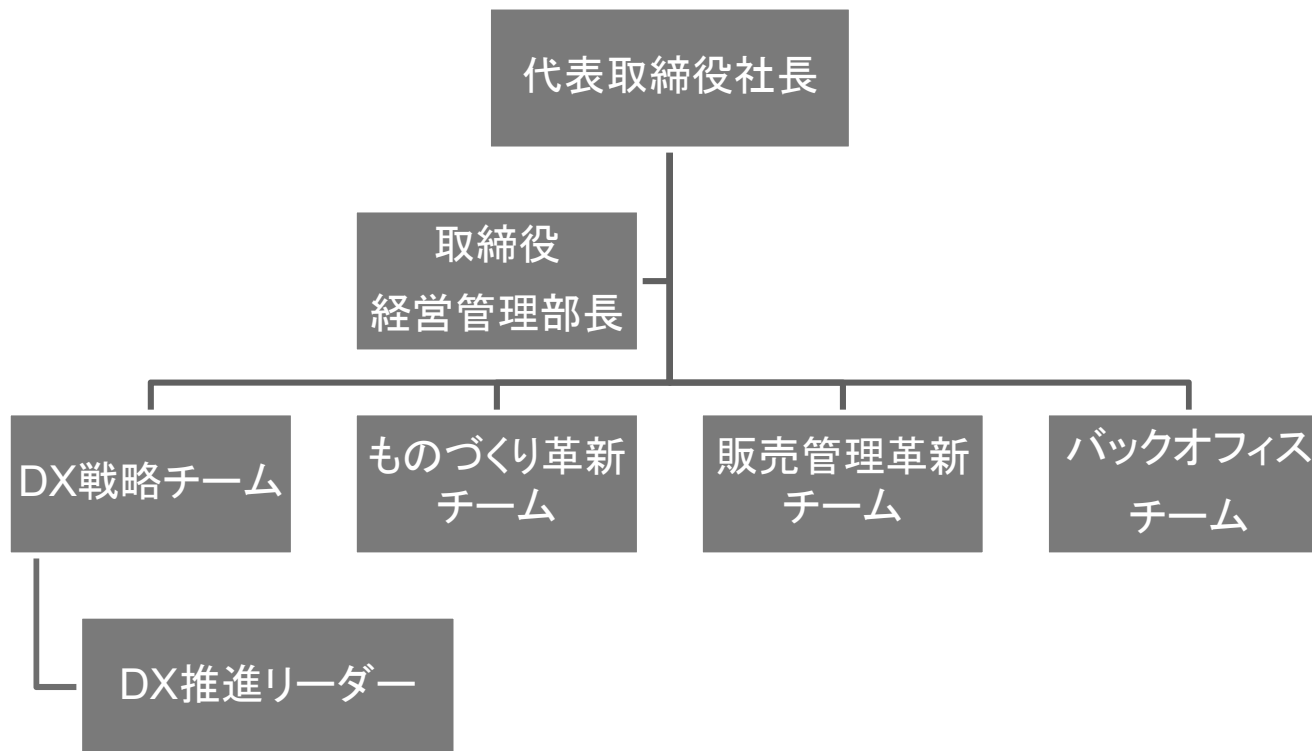
- (1) 生産管理システムによる工程管理情報、製品情報の一元管理
- (2) スケジューラー導入による生産計画作成の効率化
- (3) 営業支援ツール導入による生産性向上
- (4) FX4 MR設計ツールを使った経営資料作成の効率化
- (5) Looker Studioによるデータ分析とリアルタイム情報共有

## 2. 人財育成

- (1) DXテクノロジー活用のための人財育成（外部講習）
- (2) DX推進リーダーの育成

# DX推進における組織図

2024年10月にDX推進体制を構築し、デジタルをベースとする働き方に向けた抜本的な業務改革を、各事業チームと連携して進めています。



# DX推進計画①

---

## 1. 全体最適化

(1) 部門単位の効率化から、情報の一元管理に向けた全体最適を推進する

## 2. データドリブン経営

(1) 各システムで蓄積したビッグデータはBIツールと連携する

(2) BIツールを使って分析し生産性向上を行う

(3) データはリアルタイムでチェックしPDCAサイクルを高速で回す

## 3. ICTガバナンス

(1) 個別最適化しないように横串で管理する

(2) セキュリティや情報管理に配慮する

## DX推進計画②

### ■環境の整備

場所を選ばない共同作業環境を実現するためにGoogleWorkspaceを導入しました。また、閉域ネットワーク網内に業務サーバーを設置しVPN接続によってアクセスが可能な環境を整えました。これにより在宅時でも出勤時と変わらない業務が可能となり多様な働き方を実現しています。

### ■成果指標

DXの実現によって、下記を実現します。

- |                |         |          |
|----------------|---------|----------|
| 1. 製造生産性向上     | 粗利益額アップ | 年10%アップ  |
| 2. 営業生産性向上     | 売上額アップ  | 年10%アップ  |
| 3. バックオフィス業務改善 | 業務削減時間  | 1000時間/年 |

# DX戦略



## DX戦略

社内業務全てDXを推進させ、効率化・省力化を図ることで時間を捻出し、新たな取り組みを行うサイクルを回す。

### ものづくり革新

- ・**工程管理の効率化**：各工程の進捗状況をリアルタイムで把握し、ボトルネックの解消や手配の遅延を防ぐ。
- ・**生産計画の精度向上**：過去のデータや需要予測に基づいて、より正確な生産計画を立てる

### 販売管理革新

**営業効率の向上**：顧客情報を一元管理することで、顧客の属性や興味関心などを把握し、より効果的な営業戦略を立案し、成約率向上につなげる

### バックオフィス

**経営判断の迅速化**：手作業による入力ミスを減らし、常に最新で正確な帳票を作成する。帳票作成に掛かる時間や手間を削減し、デジタル技術を使って人件費を抑制する。

# DXシナリオ①

## 1. 社内DX推進による生産性向上

### (1) 生産管理システムによる、生産管理情報の一元管理

生産管理システムにより、受注から出荷までの情報を一元管理する事で、生産計画、納期管理、工程の進捗管理、品質記録の管理を行い、お客様にご満足頂けるQCDをご提供する。

### (2) BIツール導入による成果の見える化

業務成果を見える化する事により、やりがいやモチベーションをアップさせ、常に振り返りする仕組みでPDCAを回す文化を定着させる。

### (3) バックオフィスのDX視点による業務改善

DXを推進するために生成AI等を活用し、今行っているやり方が最適か、本当に必要か、他の方法に変えられないか業務全てを根本から見直す。

# DXシナリオ②

---

## 2. 人財育成

### (1)DXテクノロジー活用のための人財育成

外部講習などで学んだ内容は、月1回のDX発表会でアウトプットを行い、社内共有と人財育成の場とする。

### (2)DX推進リーダーの育成

新しいDX技術情報を展示会などで収集し、他社で上手くいっていることや成功事例は迅速に取り入れ、自社に合わせて進化させていく、そして変革を楽しみながら続ける。

# 具体的な方策

当社ではDXの推進のために下記のような環境整備に取り組んでいます。

1. DX化による効率化、省力化、情報の整理整頓の推進
2. 生産管理システムによる、生産管理情報の一元管理
3. BIツールの導入による成果の見える化
4. バックオフィスのDX視点による業務改革
5. DX活用推進の人財育成
6. 技術情報の収集と共有化

# 今後の情報発信

当社は、デジタルトランスフォーメーション(DX)推進を経営における重要な戦略と位置づけ、さらなる成長と発展を目指してまいります。DXビジョンに掲げる、それぞれの領域において革新的な取り組みを行い、効率的な業務遂行や顧客満足度の向上、競争力の強化を行います。

また、これらの取り組みを支えるため、DX人財の育成に重点的に取り組んでまいります。社員一人ひとりが最新技術や知識を習得し、変化の激しいビジネス環境に迅速かつ柔軟に対応できる企業体制を構築してまいります。

当社のDX推進による成果が、お客様のビジネスにも良い影響を与えられるよう努めてまいります。

今後のDX推進の状況につきましては、当社ホームページの「新着情報」にて随時公開してまいりますので、ご期待ください。

代表取締役社長 田野井 優美